



週間情報



No.0747

発行日 令和7年12月9日

発行所 全国消防長会

一般財団法人全国消防協会

担当 企画部企画課 03-4500-6622

両会の動き

◆ 「令和7年度埼玉県消防長会消防長研修」を開催

埼玉県消防長会（埼玉）

埼玉県消防長会では、令和7年11月21日（金）、さいたま市において、「令和7年度埼玉県消防長会消防長研修」を開催しました。

この研修は、埼玉県消防長会規約第1条に掲げる、「県内26消防本部の消防長の融和協調及び情報交換並びに総合的研究等を行い、もって消防の健全なる発展に寄与する」ことを目的として開催したものです。

当日は、浦和レッドダイヤモンド株式会社レッズ・ブランドアンバサダーの岡野雅行氏を講師としてお招きし、終始和やかな雰囲気の中で、「チームワークとリーダーシップ～「ジョホールバルの歓喜」はどうやって生まれたか～」と題して、貴重な経験談を交えながら興味深い内容でご講義いただきました。

また、岡野氏のリーダーシップに対する考え方が特に印象的で、ユーモアの中に他者を惹きつける力がある岡野氏のご講義により、本会の目的を大いに達成することができました。



【講師の岡野雅行氏】



【講義の様子】

◆ 「令和7年度消防職員惨事ストレス研修会」を開催

愛媛県消防長会（愛媛）

愛媛県消防長会では、令和7年11月21日（金）、一般財団法人地方公務員安全衛生推進協会と共同で、「令和7年度消防職員惨事ストレス研修会」を開催しました。

当日は、筑波大学の松井豊氏と兵庫県こころのケアセンターの大澤智子氏を講師としてお招きし、惨事ストレス対策やハラスメント対策についてご講義いただきました。

この研修会を通じて、惨事ストレスが生じる仕組み、主な症状、ハラスメントに対する判断基準などを学ぶことができたほか、職員一人一人ができることや組織としての支援対策について理解を深めることができました。

今後も、県内各消防本部の健全な運営とより強固で持続可能な組織づくりにつなげてまいります。



【研修会の様子】

消防本部の動き

行事

◆ 消防訓練場所の提供の協力に関する協定を締結

春日部市消防本部（埼玉）

春日部市消防本部では、令和7年11月18日（火）、大東建託株式会社と「消防訓練場所の提供の協力に関する協定」を締結しました。

この協定は、大東建託株式会社春日部支店が取り扱う解体予定の物件を、消防訓練場所としてご提供いただくことを目的として締結したものです。

この締結により、破壊訓練や火災想定訓練などを実際の現場に近い状況で実施することが可能となり、消防隊員の活動技術と災害対応力の向上を図ることができ、市民の安全・安心につながることが期待されます。

今後も、同社と連携した実践的な訓練を継続し、地域全体の防災力を高めるとともに、市民が安心して暮らせるまちづくりに取り組んでまいります。



【締結への署名の様子】



【締結後の記念撮影】

訓練

◆ 「Net 119 緊急通報システム」を活用した通報訓練を実施

鶴岡市消防本部（山形）

鶴岡市消防本部では、令和7年11月2日（日）から15日（土）までの期間中、119番の日を迎えるに当たり、「Net 119 緊急通報システム」を活用した通報訓練を実施しました。

この訓練は、音声による119番通報が困難な聴覚・言語障がい者の円滑な通報手段の確保体制を構築することを目的として実施したものです。

この訓練を通じて、同システム登録者の操作習熟が進む一方で、当消防本部からの案内メールへの誤返信やログイン手順の難しさなどの課題を確認することができました。

また、同システムが使用できない場合の対策として、固定電話から119番通報し、受話器を叩くことで、災害発生の可能性を認知し、消防隊などが現場確認に向かうことを周知することができました。

今後も、同システム登録者に対する定期的なフォローを実施し、確実に119番通報できる体制の構築に努めてまいります。



【受信の様子】



【当消防本部Instagram二次元コード】

◆ 交通救助事案対応研修を実施

柏市消防局（千葉）

柏市消防局では、令和7年11月15日（土）、リバー株式会社ELV柏事業所にご協力いただき、交通救助事案対応研修を実施しました。

当消防局は、近年、交通救助件数が車両安全技術の向上により減少傾向にある一方で、車両の構造が複雑化し交通救助には高度な技術や経験が必要である中、現場経験が少ない特別救助隊員が増加しているのが現状です。

この研修は、さまざまな事故形態に対する的確な対応能力の向上を図るとともに、車両破壊と要救助者の救出方法を習熟することを目的として実施したものです。

当日は、同社から訓練用の車両を提供していただき、実車両を活用した交通救助訓練を行い、特別救助隊員にとって大変有意義な研修となりました。



【研修の様子】

◆ 京都府中・北部6消防本部と合同で令和7年度特別警防訓練（救急）を実施

福知山市消防本部（京都）

福知山市消防本部では、令和7年11月18日（火）、福知山市消防防災センターにおいて、京都府中・北部の消防本部（舞鶴市消防本部・綾部市消防本部・京丹後市消防本部・京都中部広域消防組合消防本部・宮津与謝消防組合消防本部）と合同で、令和7年度特別警防訓練（救急）を実施しました。

この訓練は、丹後・中丹・南丹の3メディカルコントロール協議会が共催で、京都府中・北部地域消防指令センターを構成する6消防本部の指導救命士が症例を企画し、実施したものです。

当日は、各消防本部から計10隊の救急隊が参加し、5症例（延べ25症例）を想定した訓練をメディカルラリー形式で実施したほか、京都府中・北部地域消防指令センターでは、LIVE119を活用した現場を把握する訓練も併せて行いました。



【訓練の様子】

◆ ドローン合同訓練を実施

下北地域広域行政事務組合消防本部（青森）

下北地域広域行政事務組合消防本部では、令和7年11月19日（水）、三協工業有限会社と締結した「災害時等におけるドローンの運用に関する協定」に基づき、ドローン合同訓練を実施しました。

当日は、「熊による人的被害が発生した。」との想定で訓練を行い、山間部でドローンを活用した安全管理体制を構築することができました。

今後も訓練を継続し、多様化する災害に備えるため、ドローンを活用した柔軟な消防活動を目指してまいります。



【訓練の様子】



【ドローンによる記念撮影】

◆ 2 機関と合同で林野火災連携訓練を実施

伊勢原市消防本部（神奈川）

伊勢原市消防本部では、令和7年11月19日（水）、横浜市消防局消防航空隊および伊勢原市山岳救援隊と合同で、林野火災連携訓練を実施しました。

この訓練は、林野火災発生時における各関係機関との連携強化を図ることを目的として実施したものです。

当日は、当消防本部と各関係機関から計41人が参加し、近年、全国で多発する大規模林野火災を想定し、ホバリング中の同航空隊消火バケットへの給水連携訓練と同航空隊が火災現場を見立てた森林に対して散水訓練を行いました。

この訓練を通じて、各関係機関との連携強化を図ることができたほか、より迅速かつ効果的な災害対応体制を構築することができました。

今後も、実践的な訓練に励み、地域の安全・安心につながるよう取り組んでまいります。



【訓練の様子】

◆ 「令和7年度電気事故時における救助活動研修会」を実施

大垣消防組合消防本部（岐阜）

大垣消防組合消防本部では、令和7年11月17日（月）から19日（水）までの3日間、中部電力パワーグリッド株式会社にご協力いただき、「令和7年度電気事故時における救助活動研修会」を実施しました。

当日は、同年9月に協定を締結した大垣自動車学校ドローン教習所にご参加いただき、鉄塔上における救助事案を想定した訓練において、同教習所が撮影したドローン映像を指揮隊長と救助隊長がiPadでリアルタイムに確認し、活動内容を共有するとともに、安全管理の徹底を図りながら活動しました。

今後も、ドローンを活用した訓練を継続し、災害対応能力の向上に努めてまいります。



【訓練の様子】

◆ 他消防本部と「合同山岳救助訓練」を実施

熊本市消防局（熊本）

熊本市消防局では、令和7年11月19日（水）、熊本市南区と宇土市にまたがる雁回山において、宇城広域連合消防本部と「合同山岳救助訓練」を実施しました。

当日は、「登山客2人が登山道から滑落した。」との想定で、実践的な環境下において、他消防本部と連携しながら救助活動と指揮運用活動を実施し、登山シーズン中における大変有意義な訓練となりました。

今後も、合同訓練を継続し、他消防本部との連携強化を図るとともに、災害対応力の向上に努めてまいります。



【訓練の様子】

◆ 令和7年度警防活動総合訓練を実施

東近江行政組合消防本部（滋賀）

東近江行政組合消防本部では、令和7年11月18日（火）から21日（金）までの期間中、当消防本部訓練センターにおいて、各署所の警防職員を対象とした、令和7年度警防活動総合訓練を実施しました。

この訓練は、各小隊、隊員個々が活動方針を十分に理解し、基本行動に裏付けられた安全で確実な行動により、迅速な活動を展開するとともに、危険情報や人命情報を共有し、重大事故を未然に防ぐ安全管理を徹底することを目的として実施したものです。

期間中は、隊員約120人が参加し、「2階建て一般住宅（高気密高断熱住宅）において発生した火災により住人が逃げ遅れた。」との想定で、最高指揮者の統一的な指揮活動の下、迅速な救出活動および消火活動を実施し、実践的で効果的な訓練となりました。



【訓練の様子】

◆ 救急活動訓練を実施

かすみがうら市消防本部（茨城）

かすみがうら市消防本部では、令和7年11月23日（日）、救急活動訓練を実施しました。

この訓練は、救急活動技術の向上と救急活動への理解促進を図ることを目的として実施したものです。

当日は、多くの家族や関係者をお招きし、傷病者の観察・初期処置、資機材の活用、支援隊との連携など、実際の現場を想定した一連の訓練を実施しました。

また、心肺蘇生法体験や救急車両の展示を実施したほか、来場者に対して、救急業務に関する説明を行いました。

これらを通じて、職員は救急知識を再確認するとともに、住民とのコミュニケーション力を高めることができ、大変有意義な訓練となりました。

今後も、今回得られた成果を活動に反映させ、より質の高い救急サービスの提供に努めてまいります。



【訓練の様子】

◆ 解体予定の建物を活用した火災防ぎょ訓練を実施

西条市消防本部（愛媛）

西条市消防本部では、令和7年11月24日（月）、解体予定の小学校給食室を活用した火災防ぎょ訓練を実施しました。

この訓練は、初動対応力と連携力の向上を図ることを目的として実施したものです。

当日は、経験の浅い職員を中心に、放水、屋内検索、シャッター解放の訓練を行い、現場における資機材運用力と安全管理意識の向上を図ることができたほか、指揮系統やコミュニケーションの重要性を再認識しました。

今後も、現場活動に則した訓練を行い、実災害に強い組織を目指してまいります。



【訓練の様子】

◆ 多数傷病者対応訓練を実施

常総地方広域市町村圏事務組合消防本部（茨城）

常総地方広域市町村圏事務組合消防本部では、令和7年11月25日（火）、休園日の常総運動公園において、筑波メディカルセンター病院にご協力いただき、多数傷病者対応訓練を実施しました。

この訓練は、各隊の活動任務について共通認識を深めるとともに、部隊運用能力の向上を図ることを目的として実施したものです。

当日は、消防車両など9台計52人が参加し、「管内の幹線道路において、交通事故により多数の傷病者が発生した。」との想定で、同病院の救急科専門医にメディカルアドバイザーとして訓練全体を検証していただきながら、関係機関との連携訓練を実施しました。

また、同病院ドクターカーの医師・看護師にも訓練に参加していただき、現場救護所内における医療処置と消防隊員および救急隊員との連携活動を確認しました。

今後も、各関係機関との連携訓練を取り入れ、多種多様な災害対応能力の向上に努めてまいります。



【トリアージの様子】



【救護所の様子】

研 修

◆ 令和7年度職員倫理研修を実施

糸島市消防本部（福岡）

糸島市消防本部では、令和7年11月11日（火）、12日（水）の2日間、令和7年度職員倫理研修を実施しました。

この研修は、職員に対する各種ハラスメント防止の啓発、ハラスメント防止の意識高揚、職場環境の改善を図ることを目的として、毎年実施しています。

当日は、株式会社ナレッジソリューションにおいて企業の事業再生に携わった、元福岡市消防局の森田浩章氏を講師としてお招きし、「マネジメント力を手に入れよう」をテーマに、リーダーシップやコミュニケーション力の磨き方、部下育成や組織力を高める人材育成の方法など、消防業務にフォーカスした内容でご講義いただきました。

今後も、市民の負託に応える消防組織であるために、各種研修を積極的に行い、職場環境の改善に取り組むとともに、安全・安心なまちづくりに努めてまいります。



【研修の様子】

◆ 「火災調査研修会」を実施

奥州金ヶ崎行政事務組合消防本部（岩手）

奥州金ヶ崎行政事務組合消防本部では、令和7年11月18日（火）、これから中心となって火災調査を担う中堅職員を対象とした「火災調査研修会」を実施しました。

この研修会は、火災調査前の準備や実際の火災調査の進め方を再確認することを目的として実施したものです。

当日は、消防大学校火災調査科を修了した職員が講師となり、テーマに沿った研修内容を8つのグループに分かれて行い、楽しみながらも真剣に取り組み、火災現場における基本的な調査技術を習得することができました。

今後も、火災原因の把握により類似火災の予防に資するため、火災調査技術の向上に努めてまいります。



【研修会の様子】

◆ 「予防研修会」を開催

静岡県東部消防長会（静岡）

静岡県東部消防長会（下田消防本部、駿東伊豆消防本部、熱海市消防本部、富士山南東消防本部、御殿場市・小山町広域行政組合消防本部、富士市消防本部、富士宮市消防本部）では、令和7年11月19日（水）、「予防研修会」を開催しました。

この研修会は、将来にわたって専門化や高度化する予防業務を担う人材を育成・確保することを目的として開催したものです。

当日は、60人が参加し、横浜市消防局から神原祥司氏を講師としてお招きし、「安定望めば、進化なし～査察・設備教育の改革～」をテーマとして、査察と設備教育についてご講義いただきました。

今後も、今回の研修を機に、予防技術のレベルアップに努めてまいります。



【研修会の様子】

◆ 「原子力発電所等所在市町村消防情報連絡会」の事務担当者会議を開催

唐津市消防本部（佐賀）

唐津市消防本部では、令和7年11月20日（木）、東京都港区にある原子力規制庁の会議室において、「原子力発電所等所在市町村消防情報連絡会」の事務担当者会議を開催しました。

この連絡会は、原子力発電所などが所在する全国15消防本部（会員）で組織されており、今年度は、当消防本部が事務局を担当しています。

当日は、総務省消防庁特殊災害室の広富課長補佐をアドバイザーとしてお招きし、原子力防災に関する諸問題について情報交換を実施しました。

同月21日（金）には、同会場において、原子力規制庁原子力規制部原子力規制企画課の鳥枝火災対策室長を講師としてお招きし、「原子力及び各種災害対応」をテーマにご講演いただき、各会員本部が原子力防災を考える上で、大変有意義なものとなりました。



【事務担当者会議の様子】



【講演の様子】

◆ 「違反是正の推進に係る実務研修（区分B）」を実施

松本広域消防局（長野）

松本広域消防局では、令和7年11月17日（月）から21日（金）までの5日間、「違反是正の推進に係る実務研修（区分B）」を実施しました。

期間中は、長野県下5消防本部から計21人の査察員が参加し、長期にわたる重大違反の対応、査察の基本原則、違反処理の手順、消防法第5条の3の措置命令などについて、シミュレーション形式で研修を行いました。

また、研修後は各消防本部において速やかな違反処理を行えるよう、受講者が実際に扱っている違反処理事案を想定したシミュレーション訓練において、警告書の交付までを実施しました。

受講者から、「訓練の重要性について身をもって知ることができました。」、「違反処理に対して前向きな気持ちを掻き立ててくれる研修でした。」との熱い声を聞くことができました。

今後も、違反是正支援アドバイザー消防本部として、違反処理を行う職員の育成と長野県における違反是正の推進に努めてまいります。



【実務研修の様子】



【研修後の記念撮影】

◆ 女性消防吏員活躍推進研修の実施

湖北地域消防本部（滋賀）

湖北地域消防本部では、令和7年11月21日（金）、女性消防吏員活躍推進研修を実施しました。

この研修は、消防庁が実施する「女性消防吏員活躍推進アドバイザー制度」を活用することで、女性消防吏員のさらなる活躍推進と幹部をはじめ全職員の意識改革を図ることを目的として実施したものです。

当日は、大阪公立大学ダイバーシティ研究環境研究所客員准教授の巽真理子氏を講師としてお招きし、「みんなが働きやすい職場になるために」とのテーマで、現代日本の現状と女性活躍推進、ダイバーシティ推進の必要性、アンコンシャス・バイアス、組織や社会を変えるコミュニケーションのコツについて、ディスカッションを交えながらご講義いただき、職員は大きな「気づき」を得ることができました。



【講義の様子】



【ディスカッションの様子】

◆ 「潜水隊研修会」の実施

館林地区消防組合消防本部（群馬）

館林地区消防組合消防本部では、令和7年11月25日（火）、「潜水隊研修会」を実施しました。

この研修会は、今年度、当消防本部の潜水隊員が認定NPO法人アンダーウォータースキルアップアカデミーの救難潜水技術研修コースを受講したことを受け、同研修コースで習得した技術や知識を潜水隊内で共有することを目的として実施したものです。

潜水活動は、常に高い危険性を伴う上、管内には日本最大級の流域面積をもつ利根川の一部が含まれていることから、今後も、定期的に潜水隊の研修や訓練を継続し、隊員の知識および技術のより一層の向上に努めてまいります。



【研修会の様子】

その他

◆ 救急協力者に消防長感謝状を贈呈

鎌ヶ谷市消防本部（千葉）

鎌ヶ谷市消防本部では、令和7年11月17日（月）、救急協力者の2人に対して、消防長から感謝状を贈呈しました。

本事案は、令和7年9月21日（日）に市内のスポーツ施設において、心肺停止となった施設利用者の男性に対して、男性の知人と従業員である救急協力者の2人が協力し、119番通報、適切な胸骨圧迫を行ったものです。

男性は、救急協力者2人の迅速かつ的確な勇気ある行動により、後遺症もなく無事に社会復帰しました。



【感謝状贈呈後の記念撮影】

◆ 感震ブレーカー普及啓発活動を実施

袋井市森町広域行政組合袋井消防本部（静岡）

袋井市森町広域行政組合袋井消防本部では、令和7年11月9日（日）、来場者数約2万人の地域振興イベント「袋井市ふれあい夢市場」において、袋井市危機管理課と合同で、感震ブレーカー普及啓発活動を実施しました。

当日は、地震の揺れを再現する地震体験車に感震ブレーカーの大型模型を連結し、強い揺れによっておもりが落下してブレーカーが作動する様子を、多くの来場者にPRすることができました。

また、感震ブレーカーの大型模型のおもり部分をくす玉に改良し、落下した際に、「成功 電気遮断！」の垂れ幕が現れるユニークな仕組みを取り入れたことで、多くの注目を集め、感震ブレーカーの認知度の向上につなげることができました。



【地震体験の様子】



【感震ブレーカー大型模型】

◆ 関係機関と合同で駅前街頭広報を実施

湖南広域消防局（滋賀）

湖南広域消防局では、令和7年11月10日（月）、管内の6つの駅前において、秋季火災予防運動の一環として、構成市の消防団および湖南防火保安協会などの関係機関と合同で、駅前街頭広報を実施しました。

この活動は、火災が発生しやすい時季を迎えるにあたり、地域住民に対して火災予防思想の一層の普及を図るとともに、火災から尊い命と貴重な財産を守ることを目的として実施したものです。

当日は、通勤、通学の時間帯に広報活動を行い、幅広い年齢層の方々に対し、火災予防について呼び掛けることができました。



【駅前街頭広報の様子】

◆ 駅前広場において防火防災訓練を実施

東京消防庁（東京）

東京消防庁矢口消防署では、令和7年11月11日（火）、蒲田駅西口駅前広場において、防火防災訓練を実施しました。

当日は、蒲田駅西口アーケード街、JR蒲田駅、東急蒲田駅、グランデュオ蒲田、東急プラザ蒲田の各店舗関係者を対象とした「集合型自衛消防訓練」を実施したほか、駅利用者などの地域住民に対して初期消火訓練などの各種訓練を実施しました。

また、矢口はしご隊と空港特別救助隊が消防演技を披露し、緊急脱出の場面では、会場が大きな歓声と拍手に包まれ、都民からの消防業務への興味と期待を実感しました。

今後も、火災多発期に備えるため、さまざまな火災予防広報を通じて、地域防災力の向上に努めてまいります。



【防火防災訓練の様子】

◆ 「前橋市消防音楽隊発足60周年記念コンサート」を開催

前橋市消防局（群馬）

前橋市消防局では、令和7年11月15日（土）、「前橋市消防音楽隊発足60周年記念コンサート」を開催しました。

このイベントは、昭和40年に当音楽隊が発足してから今年で60周年を迎えることに伴い、開催したものです。

当日は、多くの皆さまにご来場いただき、心を込めた演奏を通じて、音楽隊の歩みを振り返るとともに、地域とのつながりを深めるひとときとなりました。

地域に根ざした広報・啓発活動の一環として、60周年の節目を迎えられたことに感謝を込めるとともに、今後も、「音楽でつなぐ安全・安心なまちづくり」に貢献してまいります。



【イベントの様子】



【記念撮影の様子】

◆ 「よこすか消防ウェルカムデー」を開催

横須賀市消防局（神奈川）

横須賀市消防局では、令和7年11月15日（土）、秋季全国火災予防の一環として、市内在住の家族を対象とした、「よこすか消防ウェルカムデー」を開催しました。

このイベントは、大人と子どもに楽しみながら防火に関する知識を周知するとともに、火災時の対応方法を体験することを目的として実施したものです。

当日は、総勢23組の家族計106人が参加し、子供たちが遊びを通じて、火災予防の大切さを学んだほか、救助隊員による実際の訓練を間近で見学していただきました。

また、隊員による消防車・救助車・救急車の説明のほか、横須賀市本公郷防火・防災クラブにご協力いただき、防火衣の着用体験も行い、「はたらく消防車」に触れたり、救助隊の訓練の迫力を肌で感じたり、親子ともに防火・防災への理解を深めていただきました。

今後も、こうした体験を通じて、家族で火災予防に触れ合う機会を作り、地域全体の防火意識と安全意識の向上に努めてまいります。



【イベントの様子】

◆ 株式会社カインズと合同で「くみまち消防・防災フェア in さがみはら」を開催

相模原市消防局（神奈川）

相模原市消防局では、令和7年11月15日（土）、本市と包括連携協定を締結している株式会社カインズと合同で、「くみまち消防・防災フェア in さがみはら」を市内の店舗で初めて開催しました。

当日は、今年度から導入した、現実世界に仮想の火災と消火器を投射し実施する「MR初期消火体験」を行ったほか、起震車と感震ブレーカーを組み合わせた震度体験などを防災部局と連携して実施しました。

また、住宅防火に係る製品を取り扱っている店舗において当イベントを実施したことから、住宅用火災警報器、住宅用消火器、感震ブレーカーなどの交換や設置に関する広報と市民の行動変容の後押しができ、効果的な広報となりました。

今後も、企業連携など効果的な広報のあり方を検討し、火災予防広報に取り組んでまいります。



【MR初期消火体験の様子】



【記念撮影の様子】

◆ 「消防士と学ぶ電気火災0！」を開催

舞鶴市消防本部（京都）

舞鶴市消防本部では、令和7年11月8日（土）、15日（土）の2日間、家電量販店とタイアップし、電気火災とリチウムイオン電池火災予防イベント「消防士と学ぶ電気火災0！」を開催しました。

両日は、近年、増加している電気火災とリチウムイオン電池火災について、電気火災の実演や膨らんだモバイルバッテリーなどを展示したほか、モバイルバッテリーの正しい利用方法や処分方法などを分かりやすく説明しました。

今後も、さまざまな火災予防の普及に努め、安全・安心なまちづくりにつなげてまいります。



【イベントの様子】

◆ 「親子レスキューチャレンジ」を開催

田川地区消防本部（福岡）

田川地区消防本部では、令和7年11月15日（土）、管内の児童・生徒およびその保護者を対象とした、「親子レスキューチャレンジ」を開催しました。

当日は、多くの家族が参加し、実際の消防活動を体験していただき、消防業務への興味・関心を高めるとともに、親子が協力しながら防災について学ぶ姿を見ることができました。

職員と交流するイベントを通じて、消防業務への疑問の解消や理解の促進につながったほか、親子の絆を深め、防災意識の向上にも寄与することができました。



【イベントの様子】

◆ 「消防フェスタ」を開催

取手市消防本部（茨城）

取手市消防本部では、令和7年11月16日（日）、楽天Kドリームスバンク取手（取手競輪場）において、体験型イベント「消防フェスタ」を開催しました。

このイベントは、茨城県と取手市が主催する「サイクルアートフェスティバル」と毎年同時開催しているものです。

当日は、秋晴れの下、約9,500人が来場者し、初期消火体験、応急手当体験、ロープ渡り体験、ロープ結び体験、はしご車搭乗体験、重機操作体験など、さまざまな消防体験コーナーを設け、普段できない体験をしようと各コーナーとも大盛況となりました。

また、小学4年生の6人を一日消防署長に委嘱し、「火の取り扱いの注意喚起」や「住宅用火災警報器は10年を目安に取り替え」などについて、広報活動を実施していただき、一日消防署長から、「火災予防に役立てて良かったです。」、「人が倒れていたら助けにいきます。」などの声を聞くことができました。

今後も、引き続き、火災予防への理解を深めていただけるよう努めてまいります。



【記念撮影の様子】



【イベントの様子】

◆ 「ちがさき消防防災フェスティバル2025」を開催

茅ヶ崎市消防本部（神奈川）

茅ヶ崎市消防本部では、令和7年11月16日（日）、各関係機関にご協力いただき、「ちがさき消防防災フェスティバル2025」を開催しました。

当日は、多くの市民の皆さまが来場し、「みてふれて体験してわかることがある！」をテーマに、はしご車搭乗体験、消防車両などの展示、消火・煙・キッズレンジャー体験、応急手当体験、119番通報体験など、楽しみながら消防・防災を学べるさまざまなコーナーを設けました。

また、ステージイベントでは、茅ヶ崎市消防団第22分団（茅ヶ崎ファイヤーレディーズ）による移動式ホース格納箱の使い方や消防団員募集の寸劇「声がつなぐ街の力！街を守れ！ヒーローはあなたの隣に」を熱演していただいたほか、当消防本部のマスコット「ショウボーク119号」も登場し、子どもたちとの記念撮影を行い、大変にぎわいました。

来場いただいた皆さまから、「楽しく消防・防災を学びました。」「実際の体験が役立ちました。」などの声を聞くことができました。

今後も、このような機会を通じて、市民の皆さまとともに安全・安心なまちづくりを推進してまいります。



【ステージイベントの様子】



【公式Instagramの二次元コード】

◆ 「火災予防フェア2025」を実施

駿東伊豆消防本部（静岡）

駿東伊豆消防本部では、令和7年11月16日（日）、サッカーJ3リーグの「アスルクラロ沼津」のホームゲームにおいて、「火災予防フェア2025」を実施しました。

当日は、当消防本部の火災予防普及啓発ポスターモデルであるフェンシング女子サーブル日本代表脇田樹魅選手（沼津信用金庫所属）をお招きし、試合開始前のトークイベントにおいて、火災予防について広報していただきました。

また、来場者の方々に対し、株式会社バンデロールが販売する静岡のご当地パン「のっぼ」と当消防本部イメージキャラクター「駿太くん」をコラボレーションさせた缶バッジなどを配布しました。

今後も、さまざまな広報活動を継続し、地域住民に火災予防思想の普及を図ってまいります。



【イベントの様子】



【記念撮影の様子】

◆ 「第13回水俣芦北地域幼年消防大会」を開催

水俣芦北広域行政事務組合消防本部（熊本）

水俣芦北広域行政事務組合消防本部では、令和7年11月20日（木）、水俣市立総合体育館において、「第13回水俣芦北地域幼年消防大会」を開催しました。

この大会は、管内の幼年消防クラブが一堂に会し、防火防災意識の向上と相互交流を図ることを目的として開催したもので、昭和61年から行っています。

当日は、各幼年消防クラブが和太鼓やマーチングなどの個性豊かな内容で演技披露を行ったほか、熊本県営業部長兼しあわせ部長の「くまモン」も登場し、会場は大いに盛り上がりました。

また、最後には、参加者全員で防火の誓いを立て、防火防災意識を高めることができ、大変有意義な大会となりました。

今後も、このような活動を通じて、将来の地域防災活動の担い手の育成に取り組んでまいります。



【イベントの様子】

◆ 保護者を対象とした「ミニ救急法」を開催

峡北広域行政事務組合消防本部（山梨）

峡北広域行政事務組合消防本部では、令和7年10月9日（木）から11月21日（金）までの期間中、北杜市内の保育園において、園児を迎えに来る時間帯の保護者を対象とした、「ミニ救急法」を開催しました。

この講習会は、普段実施している救命講習や救急法などの講習会に「仕事などにより参加できない。」「短時間で応急処置の知識を身に付けたい。」などの子育て世帯の要望に応えるために開催したものです。

当日は、救命の連鎖や応急手当について説明し、保護者の興味・関心を高めるとともに、救急に対する普及啓発につなげることができ、大変有意義な講習会となりました。

今後も、イベントや講習会を企画し、「もしもの時の救急」に対応できるよう普及啓発活動を継続してまいります。



【講習会の様子】

◆ 「第45回つくばマラソン（ファンラン）」に参加し、火災予防に関するPRを実施
つくば市消防本部（茨城）

つくば市消防本部では、令和7年11月23日（日）、「第45回つくばマラソン（ファンラン）」に参加し、火災予防に関するPRを実施しました。

つくばマラソンは、1981年に「筑波学園マラソン」として誕生し、ペース維持をしやすい自然に囲まれたコースが特徴で、毎年、全国各地から多くのランナーが参加する大会であり、今大会から初めてファンラン（楽しんで走ることが目的で仮装や着ぐるみでの参加が可能）も開催されました。

当日は、フルマラソン、ファンラン合わせて9,000人以上が参加し、当消防本部からも職員が勤務で着用している服装や装備で走り、山火事防止などの火災予防について広報しました。

このイベントを通じて、出走中もランナーや沿道で応援している皆さまから、声援や写真撮影のお願いなど、たくさんのお声がけをいただき、効果的な火災予防広報を行うことができました。今後も、さまざまな形で火災予防の普及啓発活動に努めてまいります。



【ファンランの様子】



【記念撮影の様子】

◆ 「普通救命講習Ⅲ with 子育てコーディネーター」を開催

多治見市消防本部（岐阜）

多治見市消防本部では、令和7年11月25日（火）、市役所の子ども家庭課に所属する子育てコーディネーターと共同で「普通救命講習Ⅲ with 子育てコーディネーター」を初めて開催しました。

当日は、多くの親子が参加し、応急手当を学ぶとともに、同コーディネーターによる子育て相談会を実施し、さまざまな助言を受けました。

また、参加者同士のコミュニティも生まれ、当市が注力する子育て支援事業に対し、消防業務を通じて貢献できた手ごたえのある有意義な講習となりました。



【講習の様子】



【子育て相談会の様子】

消防庁通知等

◆ 降積雪期における防災態勢の強化等について

(中防消第10号、令和7年12月2日)

中央防災会議会長（内閣総理大臣）から関係都道府県防災会議会長あてに通知が発出されたので、お知らせします。

貴殿におかれては、日頃から各般の施策を通じて災害対策の推進に御尽力をいただいているところであるが、例年、降積雪期においては、依然として災害による犠牲者が発生している状況にある。

昨冬期も、除雪作業中の事故等により、死者68名、重傷者416名等、多くの人的被害が発生した。

また、豪雪地帯では、高齢化及び過疎化の進展、除雪の担い手となる建設業者等の減少が課題となっていることに注意が必要である。加えて、特に普段、雪害が少ない地域においては、平成26年2月の大雪で教訓となった初動体制や除雪体制の整備、住民、ドライバー等への的確な情報提供、要配慮者への対応、孤立のおそれがある地域に対する対策等に十分留意する必要がある。なお、令和6年能登半島地震により揺れが強かった地域では、損傷している建物の倒壊等が積雪により発生する可能性もあるため、その点御留意いただきたい。

—以下省略—

○ 全文は、消防庁ホームページ

(https://www.fdma.go.jp/laws/tutatsu/items/251202_bousai_1.pdf) に掲載されています。

◆ NTT 固定電話網の IP 化に伴う消防機関へ通報する火災報知設備の接続回線に係る対応について

(事務連絡、令和7年12月2日)

消防庁予防課から各都道府県消防防災主管課、東京消防庁・各指定都市消防本部あてに事務連絡が発出されましたので、お知らせします。

NTT 東日本株式会社及び NTT 西日本株式会社（以下「NTT」という。）の固定電話網が令和17年度を目途にアナログ電話回線^{*1}から IP 電話回線^{*2}へ段階的に移行する予定とされています。

これを踏まえ、NTT から、一般社団法人日本火災報知機工業会宛てに別紙1のとおり、今後、消防法施行令（昭和36年政令第37号）第23条の消防機関へ通報する火災報知設備（以下「火災通報装置」という。）を新設又は更改する場合には、防火対象物の関係者に対し、IP 電話回線を使用するように周知依頼を行った旨、消防庁予防課宛てに別紙2のとおり連絡があったところです。（別紙省略）

—以下省略—

○ 全文は、消防庁ホームページ

(<https://www.fdma.go.jp/laws/tutatsu/items/8b7c83da3b50d8ccac1a75c9c68cd77adc89c5b1.pdf>) に掲載されています。

報道発表

◆ 第7回緊急消防援助隊全国合同訓練

(令和7年12月1日、消防庁)

緊急消防援助隊は、平成7年の阪神・淡路大震災を契機に創設され、大規模災害に対し、これまでに47回の出動実績があります。

消防庁では、緊急消防援助隊の技術の向上及び関係機関との連携活動能力の向上を図ることを目的に、概ね5年ごとに全国の緊急消防援助隊が一堂に集結して行う全国合同訓練を実施しています。

第7回目となる今回の訓練は、日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震を想定し、実動訓練としては初めて、北海道及び宮城県の2か所で開催する予定です。

—以下省略—

○ 全文は、消防庁ホームページ

(<https://www.fdma.go.jp/pressrelease/houdou/items/e766879ba1ccdcbaafda09defc05dd681215b6fae.pdf>) に掲載されています。

消防庁：国民保護・防災部 防災課 広域応援室
担当者：上田課長補佐・藤江係長・鈴木事務官、谷川事務官
連絡先：03-5253-7569

◆ 非常勤消防団員等に係る損害補償の基準を定める政令の一部を改正する政令案に対する意見募集

(令和7年12月1日、消防庁)

消防庁は、非常勤消防団員等に係る損害補償の基準を定める政令の一部を改正する政令案について、令和7年12月2日から令和8年1月5日までの間、意見を募集します。

—以下省略—

○ 全文は、消防庁ホームページ

(<https://www.fdma.go.jp/pressrelease/houdou/items/7eb0cc8e11829bdad9a7da78d7fba6f30ee60345.pdf>) に掲載されています。

【連絡先】

消防庁国民保護・防災部地域防災室
有村課長補佐、高橋事務官
TEL：03-5253-7561（直通）
E-mail：syobodan@ml.soumu.go.jp

◆ 消防分野における最新技術活用検証事業に係る検証技術の募集

(令和7年12月2日、消防庁)

消防庁では、令和7年度より、関係省庁（内閣府科学技術・イノベーション推進事務局、内閣府防災、文部科学省、経済産業省）や研究機関等（情報通信研究機構、防災科学技術研究所、福島イノベーション・コースト構想推進機構）、消防機関と連携し、「消防分野における最新技術活用検証事業」を実施することとしました。

本事業は、内閣府事前防災対策推進費を活用して、スタートアップ企業等が開発した最新技術のうち、消防活動に活用できる可能性があるものについて、消防機関とのマッチング、現場検証、横展開を通じて、消防分野への最新技術導入に係る手法の確立を図るものです。

—以下省略—

○ 全文は、消防庁ホームページ

(https://www.fdma.go.jp/pressrelease/houdou/items/01_gisenn.pdf) に掲載されています。

【お問合せ先】

消防庁技術戦略室

中嶋、西田、岩井、佐々木

電話：03-5253-7541

e-mail：gisei2_atmark_ml.soumu.go.jp

※スパムメール対策のため、「@」を「_atmark_」と表示しております。送信の際には、「@」に変更してください

情報提供

◆ 「第8回通信指令シンポジウム」の開催について

通信指令シンポジウム実行委員会

大会テーマ：「DXで消防通信指令を革新～情報収集の進化で拓く現場の力～」

目的

本シンポジウムは、消防の通信指令における稀な事案の経験、業務改善の取り組み、研究によって得られた知見などについて、発表し、聴講し、そして議論する場を提供することによって、消防通信指令業務の高度化を図り、もって、国民の生命、財産を守るわが国の消防業務の発展を図ることを目的として実施するものです。

1 実施日

令和8年3月14日（土）11時00分～18時00分

2 会場

帝京平成大学池袋キャンパス（東京都豊島区東池袋2-51-4）

※ 対面開催・後日オンデマンド配信

3 主催

第8回通信指令シンポジウム実行委員会

委員長：朝井 良一（大阪市消防局 警防部司令課 指令管制業務担当課長）

4 対象者

通信指令員、その他消防職員、自治体関係者、医療関係者、通信指令機器取扱業者、通信指令業務に関心がある者

5 申し込み方法

ホームページの申し込みフォームから参加申し込みをお願いいたします。

<https://tushinsinpo8.com>

6 参加費

4,000円当日参加、および後日オンデマンド配信の視聴を含みます。

参加費については、参加申し込み時に銀行振込またはクレジットカード決済を選択し、手続きを行っていただきます。

※ 次年度、第9回から参加費を7,000円に値上げ予定

7 開催スケジュール（プログラム編成については、変更となる場合もあります。）

午前の部（11時00分～12時00分）

(1) 開会式

(2) 基調講演

昼休憩（12時00分～13時00分）

午後の部（13時00分～18時00分）

(3) 特別講演

(4) 教育講演

(5) パネルディスカッション

(6) ワークショップ

(7) 一般演題（対面またはオンデマンド）

8 プログラム概要（出演者の都合等により、変更となる場合もあります。）

(1) 基調講演

緊急通報の将来（仮称）

(2) 特別講演

バイスタンダーから見た口頭指導（仮称）

(3) 教育講演

自動緊急通報について（仮称）

(4) パネルディスカッション1～3

(5) ワークショップ

レッドフラッグを活用した通信指令員研修（仮称）

(6) 一般演題

9 演題募集

演題の分野は次の事項について広く募集します。

(1) 指定演題

ア パネルディスカッション (PD1)

テーマ1 口頭指導の取り組み

イ パネルディスカッション (PD2)

テーマ2 可視化された災害・救急現場

ウ パネルディスカッション (PD3)

テーマ3 指導的役割の指令員像について

(2) 一般演題

ア 火災、救助、多数傷病者対応

イ 救急対応、口頭指導、連携

ウ 感染症対策、指令運用、その他

※ 特に火災、救助、多数傷病者など多様な関連演題応募もお願いします。

10 演題応募先など

(1) 演題応募先

ホームページ：<https://tushinsinpo8.com>

(2) 演題募集期間

令和7年10月1日(水)から令和8年1月16日(金)まで

(3) その他

ア 発表抄録は、500字～1,000字程度を目安に記述ください。

イ 内容は、締切日まで修正いただけます。

ウ 発表は、対面または発表を録画した動画データの提出をお願いする予定です。

エ 動画については、後日オンデマンド配信を行います。シンポジウム参加者以外は視聴できませんが、公開を前提に、個人情報などについてはあらかじめ削除いただくなど配慮をお願いいたします。

11 備考

(1) 第8回通信指令シンポジウムは、対面開催で実施し、一部プログラムを除いて後日(3月下旬予定)オンデマンドにて、参加者全員が視聴できる予定です。

(2) 配布資料およびプログラムは、当日参加の方には会場にてお渡し、オンデマンド視聴の方には後日送付させていただきます。

【連絡先】

実行委員会 事務局長：北小屋 裕

運営事務局 株式会社ドウ・コンベンション

E-mail: tushinsympo-office@umin.ac.jp

TEL: 03-5289-7717

機関誌「ほのお」記事募集

一般財団法人全国消防協会では、機関誌「ほのお」に関して、各消防本部より次の投稿記事を募集しています。

①トップ・セカンド記事

②知識・技術の伝承—教えて！消防技術—

③女性職員の活躍推進

※①・②・③の執筆要領等の詳細は、週間情報（No.0716）1ページ、機関誌「ほのお」2025年4号（4/25発刊）29ページを参照願います。

TEL：03-4500-6622 機関誌「ほのお」担当：企画課 中西

原稿データは、kikakoho@fcaj.gr.jpに送信願います。

④消防ワイド

【特徴】

- ・写真中心のビジュアルな広報
- ・紙媒体により記録性に優れる広報

【留意事項】

- ・文章は、Wordで100文字程度で作成をお願いします。
- ・写真は、Wordに貼り付けず、JPEG画像データを1枚送付してください。
- ・消防ワイド、週間情報の両方に投稿された場合、どちらか一方のみの掲載となります。

TEL：03-4500-6622 機関誌「ほのお」（消防ワイド）担当：企画課 中西

原稿データは、honoo@ffaj-shobo.or.jpに送信願います。

ご投稿をお待ちしております。

※添付ファイルの容量が5MBを超える場合は、分割して送信願います。

週間情報への投稿は企画課へ！

週間情報では、各消防本部の身近な情報を掲載していますので情報をお寄せください。

【特徴】

- ・原則毎週刊行される、速報性のある広報
- ・文章中心の情報量が多い広報

【留意事項】

- ・配信日（原則火曜日）から前2週間以内のイベント、訓練等を中心に掲載しています。
- ・文章は、Wordで200～400文字程度で作成をお願いします。
- ・写真は、1～2枚をWordに貼り付けて送付してください。
(貼り付けできない場合は、JPEG画像データを送付してください。)
- ・週間情報、消防ワイドの両方に投稿された場合、どちらか一方のみの掲載となります。
- ・掲載が決定した場合のみ、担当者からメールを返信させていただきます。

TEL：03-4500-6622「週間情報」担当：企画課 吉田

原稿データは、weekly@fcaj.gr.jpに送信願います。